

チームH：主体性をはぐくむサロンの運営

発表者：石川,三澤

三者協働の意義

○三者協働

⇒ お互いの違いを活かして、より良い解決策を考えることに意義がある

・学生

⇒ より良いサービスを楽しむことができる

・教員/職員

⇒ 『今』の学生の理解、サービスの提供

0. チームで合意した最優先の問題点・課題点

主体性が足りない学生が多い（学生からの意見）

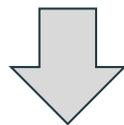
例)ゼミの活動で発言する学生、黙っている学生の
差が激しいと感じる

⇒ 主体性が足りないと何が問題？

社会の変化が大きい今日、自ら課題を見出し、解決策を
考える能力が必要であり、社会も求めている人材である。

1. チームで洗いだした問題点・課題点の解決策に向けて議論したこと

主体性を育むことは、積極的に授業に参加すること、自分の進路（キャリアデザイン）を考えること、それより先の学生の未来にも影響する大切な能力。



主体性を育んだ学生が増えることは、大学全体の大きなメリットとなる

主体性を育むために必要なことは？

- ・ 挑戦する機会があり、チャレンジしてきた！という成功体験
- ・ 同じ環境と一緒にチャレンジしてくれる友人や先輩などの存在

この環境に教員や職員も関わると良いのではないか？

【理由】

- ・ 教職員には、学生が主体性を育むことができる環境を整え、サービスが求められる！

2. 対象となるステークホルダーの指定

対象：**1年生** **2年生**（低年次の学生）

特に、下宿生など、大学に入って知り合いが少ない学生や目標がはっきりしない学生など

目的：仲間作りができる場の提供。

「主体性をはぐくむサロン」

関係づくり：「主体性をはぐくむサロン」の運営

運営主体は学生（3、4年生など高年次の学生）

サロン活動やイベントの企画・運営・・・学生

広報・・・学生、職員

アドバイザー・・・教員、職員（学生からの依頼などで参加）

運営窓口・・・学生生活支援グループ

3. 10年後を想定した最適な解決策

10年後、「主体性をはぐくむサロン」の参加者、運営者が増えていくことで、**受身型の学生が減り**、仲間との活動を通して**主体的に考動できる学生が増えていく**。

4.具体的に最適解をどう実践していくのか

常設サロンの場を設置、開放し、定期的にイベントを組み入れて、誰もが立ち寄れる溜まり場を運営する。

サロン運営にあたっての課題と対策

場所はどこに？→当面仮設（教室・食堂・会議室）

サロンの周知、集客方法は？→**新入生をターゲットに。履修登録時など学生が必ず行うこと、行うときをフックに。**

学生が中心となって運営するノウハウがない。

→開設前に運営にあたっての勉強会実施、運営側学生には責任感を持ってもらうため、アルバイトとして参加。

5.対象となるステークホルダーがどのような恩恵を受けるのか？ どんなことに価値を見出して欲しいのか？何に感謝して欲しいのか？

恩恵： 同じ目標に向かう仲間ができる。目標を持つきっかけになる。
学校に居場所ができ、仲間とともに何かにチャレンジできる機会、能力を得ることができる。

価値： 自分たちで主体的に考動することの面白さに気づく。
仲間との関わりを通して自他を知り、成長できる。

感謝： サロンで得た経験を就職活動や社会人として活かせたこと。
一緒に成長する仲間の存在と仲間とともにある自分自身。

6.対象となるステークホルダーが受けた恩恵・見出した価値をどういった形で可視化するのか？

- ・ 定期的なイベントを**SNS**にアップし、関西大学の魅力として発信する。
- ・ 運営が軌道に乗ったら関西大学の取り組みの一つとして**HP**で紹介。
- ・ 入学時オリエンテーション、オープンキャンパスなどで学生自らがサロン活動をアピールする。
- ・ キャリアセンターと連携したイベントの開催。

7. 大学全体のステークホルダーを巻き込んで、どう いうやり方で展開していくのか？

学生・・・運営主体

職員・・・広報、施設管理、事務窓口、イベント開催の補助

教員・・・アドバイザー

地域住民・保護者・・・イベント参加、イベント運営の手助け

8. 今回の最適解がうまく機能したことをどうやって証明するのか？

- ・サロンに関わった学生の主体性の問題を評価する

例) アンケートにより、満足度を評価する。

- ・サロン活動やその成果（学生の学びや成長）について報告書として記録に残し、公表する。

例) 三者協働で、振り返りミーティングの実施。

9. 今回のまとめ

○主体性が足りない学生が多い
サロンで主体性を育む



①教職員のサポート



②学生の主体性の向上



③教職員は学生が抱える問題を把握できる



④学生より良いサービスを提供できる



①に戻る(繰り返し)

研修の振り返り・感想

立場は違っても、同じ関大に所属するものとして三者で施策を検討すること。

→関大に対する所属意識の向上、それぞれの立場、役割を理解することができ、大変良い機会となった。

→この研修を通じて、『主体性』が磨かれた。